

第2次袋井市地域公共交通計画（最終案）に対する パブリックコメント実施結果

1 実施状況

- (1) 募集期間 令和7年12月19日から令和8年1月19日まで（32日間）
 (2) 閲覧場所 袋井市ウェブサイト、袋井市役所、浅羽支所、
 総合健康センター、月見の里学遊館

2 意見提出 3人、13件

<いただいたご意見とご意見に対する考え方>

※ いただいたご意見については、適宜要約しています。

No.	ご意見	市の考え方 (◆ゴシック文字は計画への 反映内容)	頁
1	<p>【計画全体への意見】 人口減少・高齢化や運転士不足、燃料費高騰、地域ボランティアの担い手不足といった構造変化が今後加速することを踏まえ、単なる前計画の踏襲にとどまらず、持続可能性を見据えた質的な転換を明確に打ち出す必要がある。</p>	<p>人口減少や担い手不足といった問題については、現段階で、有効な対策や取組を絞ることができないため、各施策において同問題を念頭に対応していくとともに、国・県などの関係機関や交通事業者等との情報交換を密にし、状況の変化を捉えるよう努める。</p>	全般 15 ほか
2	<p>【基幹公共交通と都市構造の関係性の明確化】 南北軸の基幹バス路線の意義が、現状維持の目的化にとどまる印象がある。 「立地適正化計画」や「都市計画マスタープラン」のコンパクトシティの理念と整合させて、基幹バス路線を居住誘導・都市機能誘導の基盤的インフラとして明確に位置づけることが重要ではないか。</p>	<p>基幹バス路線の位置づけについては、「都市計画マスタープラン」と整合させるとともに、「立地適正化計画」と連携を図っていく。 ◆P17「各移動手段の位置づけ」において、「袋井市立地適正化計画」上で「基幹的公共交通」として位置付けられている旨の記載を追加する。</p>	17, 24 ほか
3	<p>【高校生の通学支援を負担ではなく「将来投資」として再定義してはどうか】 支援の仕方も金銭補助に限らず、定期券のデジタル化や学校・交通事業者・市の連携などを織り込んではどうか。</p>	<p>高校生の通学支援等については、長期的な効果を見据えていくことを示していく。 コストを抑えた効果的な取組については、計画期間の中で検討していく。 ◆P14の「2.3.(2)」に将来投資の観点から、「地域の持続性を高める」の冒頭に「将来的な」を追加する。</p>	14, 34 ほか

No.	意見の概要	市の考え方・対応 (◆ゴシック文字は計画への 反映内容)	頁
4	<p>【高校生の移動手段を公共交通ありきとせず、地域特性を踏まえて捉えては】</p> <p>高校生の移動支援は、公共交通一択とせず、大局的に移動のあり方を捉える視点も必要と考える。</p> <p>輸送機器産業に支えられてきた地域特性を踏まえ、交通安全教育を前提に、高校での原付等の自動二輪抑制を見直して、地域産業への理解に繋がるモビリティ文化への関わり方を検討することを、将来的な投資と捉えてはどうか。</p> <p>また、地元企業と連携した電動アシスト自転車の活用など、地域内経済循環に資する事業を進めてはどうか。</p>	<p>原付等も有効な移動手段と捉えているが、本計画は地域公共交通活性化を目的としていることから、現行のとおり、地域公共交通を移動手段とした記述とする。</p> <p>いただいた御意見は、今後の本市の施策の参考としていく。</p>	14, 34 ほか
5	<p>【「わかりやすい情報提供」を情報提供の「統合設計」の課題として捉えては】</p> <p>自治会別チラシや通学・転入者向け案内など、対象別・手段別の情報提供施策が多面的に提示されているが、課題は情報量不足ではなく、交通手段ごとに情報が分断され、高齢者・高校生・免許返納者など属性別の導線が示されていない点にある。</p> <p>地区・属性別に使える移動手段を整理するなど、個別施策を横断する、情報提供全体の統合設計の方針を示してはどうか。</p>	<p>情報提供全体の統合設計については、計画期間の中で、P35からの「4. 2. (3)」の推進と併せて、個別の情報提供の統合や地区別・属性別の提示方法を検討し、異なる移動手段等を組み合わせたわかりやすい情報提供に努める。</p> <p>◆P36「3-④ 自治会別公共交通利用チラシの作成」の中で、高齢者にも見やすいチラシを作成するという内容を追加する。</p> <p>◆P36「3-⑤ 高齢者のバス利用のきっかけづくり」の中で、バスマップ等の公共交通に関する情報の読み方等を案内していくという内容を追加する。</p>	12, 14, 35, 36 ほか

No.	意見の概要	市の考え方・対応 (◆ゴシック文字は計画への 反映内容)	頁
6	<p>【医療・福祉・教育施策と交通施策の横断的整理について】</p> <p>高齢者や高校生、障害者など対象別の交通課題整理は分かりやすい一方、交通施策が医療・福祉・教育施策とは切り離され独立している印象を受けた。</p> <p>通院・通学・福祉サービス利用といった「移動の目的」に立ち返って、関係部局や関係計画と連動し、「どの施策のどの場面でどの移動が生じるか」を横断的に整理する視点が、交通施策の実効性を高めると考える。</p>	<p>医療・福祉・教育施策と交通施策の横断的な視点については、計画期間の中で、個別事業や運行内容の検討・見直しの際の参考とさせていただく。</p>	27, 32
7	<p>【住民協働を前提としつつ、過度なボランティア依存としない方策の模索】</p> <p>住民協働や地域主体による移動手段が重要な役割として位置づけられている一方、今後さらに深刻化する高齢化や担い手不足に伴い、善意や無償・低報酬が前提のボランティア依存は、地区によっては持続性の面で限界となるおそれがある。</p> <p>行政・事業者・地域の役割分担や負担の見える化、段階的な公的関与の在り方を整理していくことが、地域の取り組みを守り、交通施策の持続性を高めると考える。</p>	<p>本計画のヒアリング等により、地域住民の善意だけに頼る運営では、持続性の高い交通施策とならないことを課題として整理した。</p> <p>行政・事業者・地域の役割分担については、令和3年度に作成した「袋井市マイタウンモビリティ導入ガイドライン」を参考に、事業ごとに調整していく。</p>	15, 32 ほか
8	<p>【次世代モビリティ・MaaSは実証を行わないことがリスクでは？】</p> <p>次世代モビリティ・MaaSを「研究・検討」するとしているが、技術進展の速さを踏まえると、小規模でも実証を行うべき。</p> <p>本市は、市域規模や地域特性・課題の多様性などから、実証フィールドとして適しており、計画期間の中で「必ず1地区以上で実証」を目標とし、定量的な評価よりも「何が分かったか」を重視してはどうか。</p>	<p>次世代モビリティ等については、技術革新など有効な媒体ができた場合には、コストを考慮した上で、実証などを含め、積極的に検討していく。</p>	30

No.	意見の概要	市の考え方・対応 (◆ゴシック文字は計画への 反映内容)	頁
9	<p>【次世代モビリティを織込んだ都市構造創造的なまちづくりプロジェクトへの展開】</p> <p>ウーブンシティのように、民間と連携し、当市が全国的な先進実証フィールドとなる可能性も視野に入れてはどうか。</p>	<p>本計画は、地域公共交通の活性化を目的とした計画であるため、いただいた御意見は、今後の本市の施策の参考とさせていただきます。</p>	30 ほか
10	<p>【免許返納を前提とし過ぎない移動支援】</p> <p>返納時期だけでなく、返納後に生活を維持できる条件や、返納しない期間の安全確保といった視点も必要。</p> <p>返納を目的化せず、多様な選択肢を前提として移動支援の考え方を打ち出すべき。</p>	<p>自家用車が持つ役割を考え、免許返納の促進を目的としていない。</p> <p>必要なときに安心して免許返納できることを基本とし、地域特性に応じた公共交通の確保や、幅広く公共交通の使い方を認知してもらうことが重要であると考えている。</p> <p>地域と運行の検討・見直しをしていくことや、わかりやすい情報提供を行うなどにより、市民に対して公共交通への受容性を育むことに努める。</p>	12, 32 ほか
11	<p>【「やらないこと」を明示する重要性】</p> <p>本計画は、多様な課題に幅広く対応しようとする意欲を感じるが、施策が網羅的すぎて、優先順位や取捨選択の判断軸が見えてこない。</p> <p>限られた人的・財政的資源をどこに集中するかを明確にし、市民にとって現実的な理解に繋げていくためにも、「実施しない施策」や「条件が整った段階で検討する施策」を明示するなどし、優先順位の考え方を計画の基本姿勢として示してはどうか。</p>	<p>本計画をより実効的なものとするため、前計画で実施できなかった事業については、現在の本市状況を鑑みた中で、対象を限定して引き継ぐ等していく。</p> <p>また、現段階で掲載しておらず、実施予定がない施策については、周辺状況に大きな変化が生じた際には、計画変更により検討する。</p> <p>本計画では、各事業の進捗評価及び各路線の事業評価を毎年実施していく中で、必要に応じて人的・財政的資源の配置を見直すことも視野に入れながら、事業を進める。</p>	全般

No.	意見の概要	市の考え方・対応 (◆ゴシック文字は計画への 反映内容)	頁
12	<p>令和 10・11 年度に計画されている「かわせみ」の検討について、あらためて対応・支援を検討する際には、地域と密に意見交換し、地域に合った移動手段となるよう進めてほしい。</p> <p>また、「かわせみ」は、利用者を「運転免許のない高齢者」に限定しているが、三川地区でも、誰でも使える交通手段を検討してほしい。(例：イオン付近を午前中に一往復する買い物便など)</p>	<p>「かわせみ」においては、本計画のヒアリングの中で、午前中の利用申し込みが多いため、運行計画の作成に苦慮しているなどの課題を把握した。事業を進める際には、現状や課題を棚卸しし、誰でも使える交通手段を含め、地域とともに検討する。</p>	27
13	<p>令和 10・11 年度に計画されている「かわせみ」の検討について、あらためて対応・支援を検討する際には、地域と密に意見交換し、地域に合った移動手段となるよう進めてほしい。</p> <p>また、電話対応や手書き予約表などの事務処理において、デジタル化による効率化への支援をお願いしたい。</p>	<p>三川地区においては、本計画のヒアリングの中で、「かわせみ」の予約受付やドライバーのシフト作成に関する負担感などの課題を把握した。事業を進める際には、現状や課題を棚卸しし、課題解決の手法として、デジタル活用も視野に、地域とともに検討する。</p>	27

<その他のご意見>

※ いただいたご意見については、適宜要約しています。

No.	ご意見	市の考え方	頁
1	<p>【意見聴取の形式要件に関する意見】</p> <p>多数の住民が論理的・体系的な意見を提出しやすくするため、電子申請フォームの文字数制限(400字)の拡大または電子申請フォームへのファイル添付機能導入などを検討してほしい。</p>	<p>ご意見は本計画の範囲外となるが、今後の意見聴取において改善を検討していく。</p>	—
2	<p>【電子申請フォームの改善についての要望】</p> <p>意見提出者の安心感を高めるために、意見提出の事実や提出した意見の内容を、後から確認できる仕組みを導入してはどうか。</p>	<p>ご意見は本計画の範囲外となるが、今後の意見聴取において改善を検討していく。</p>	—